

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

災害時における看護学生の役割に関する文献検討

坂田和紗 谷口美咲
(指導：荒ひとみ)

緒言

内閣府(2020)の報告によると、近年日本では特有の地形に伴う災害が多く発生し、今後も同様の災害が各地で発生すると予測している。比較的災害の少ない北海道でも、2018年の北海道胆振東部地震による全道一帯のブラックアウトで、公共交通機関が止まり登校できない、講義連絡をonline上でやり取りできないなどを経験した。

松清ら(2009)、中村ら(2013)によると日本の看護学生は、災害や防災に関する興味、役割意識などは高いが防災行動は伴っていない。小原ら(2019)は、医療職者は災害時に果たす役割の重要性から自身の防災対策を十分に行う必要があると報告している。吉見ら(2019)の研究では、看護学生に必要とされる看護援助技術として、

【BLS・トリアージ・応急手当の実施】【避難者のニーズ・健康状態の把握】などの5つの大カテゴリを抽出している。そこで、看護学生が自身の防災対策ができていれば、災害時に避難所などで支援活動ができるのではないかと仮定した。看護学生の防災意識と防災行動、災害時に求められる看護学生の行動を文献より抽出し、災害時における看護学生の具体的な役割について検討することを目的とする。

用語の定義

災害	重大かつ急激な出来事で、自然現象や人為的な原因により人命や社会生活に影響を及ぼす大規模な非常事態とする。
防災意識	災害による被害を最小限に抑えるための考えや意識とする。
防災行動	災害による被害を最小限に抑えるための行動や備えとする。
避難所	生命を守るために身を置く場所や施設であり、一時的な生活の場とする。

方法

研究対象：医中誌Web版を使用し検索を行った。検索対象期間は2009年から2020年とした。キーワード『看護学生 災害』では167件『看護学生 防災意識』では8件『看護学生 防災行動』では7件ヒットした。文献選択基準を①日本の看護学生の防災意識または防災行動について調査した論文、②災害時における看護学生に必要な行動について調査した論文、③原著論文とし、研究目的に合致する文献18件を研究対象とした。

分析方法：Berelson, Bの内容分析の手法を参考とし、データを質的記述的に分析した。研究のための問いは防災意識に対して「医療者は防災意識をどう捉えているか」防災行動に対して「医療者はどんな防災行動をとっていると捉えているか」災害時に求められる看護学生の行動に対して「医療者は看護学生にどのような災害時の行動を求めているのか」とし、問いに対する回答は防災意識に対して「医療者は防災意識を〇〇と捉えている」防災行動に対して「医療者は防災行動として〇〇をしていると捉

えている」災害時に求められる看護学生の行動に対して「医療者は看護学生に災害時に求めている行動を〇〇と捉えている」とした。対象文献から、看護学生の防災意識と防災行動、災害時に求められる看護学生の行動を1文脈単位として抽出し、意味内容を損なわないように文章を抽出し記録単位とした。出現頻度の高い用語をキーワードとして同一記録単位群に分類し、研究のための問いに対しての意味内容の類似性に基づいてカテゴリを形成した。分析の信頼性を高めるため、本研究に携わっていない看護研究者2名に一致率算出のための協力を依頼した。**倫理的配慮：**本研究は先行研究に基づく研究であり、引用・参照した文献の出典を明示する。

結果

防災意識において35記録単位 11同一記録単位群 3カテゴリを抽出した(表1)。防災行動において138記録単位 36同一記録単位群 4カテゴリを抽出した(表2)。看護学生に求められる災害時の行動において76記録単位 26同一記録単位群 5カテゴリを抽出した(表3)。カテゴリの分類の一致率は92%、89%であった。

表1 防災意識

カテゴリ名	同一記録単位群 (記録単位数)	記録単位数 (%)
1.過去に起きた災害に関する話し合いと今後の災害予測	災害に対する心構えや話し合い (4) 住んでいる地域の災害に対する危険性 (2)	18 (51)
2.防災訓練・災害時ボランティアへの参加と意思	災害を想定した訓練への参加 (6) 災害時ボランティア活動への参加意思 (3)	9 (24)
3.災害や防災に対する興味・関心・認識	災害や防災に対する興味・関心 (5) 災害や防災に対する認識・考え (2)	8 (23)

表2 防災行動

カテゴリ名	同一記録単位群	記録単位数 (%)
1.災害時の非常持ち出し品や備蓄品、防災設備、家庭の防災に関する準備	避難用品・防災グッズ・非常持ち出し品の確認・準備 (10) 家具の固定・転倒転落防止 (7)	66 (48)
2.災害時の情報収集・連絡方法についての準備	連絡方法の確認・連絡網の作成 (8) メディアやSNSを通じての災害関連の情報収集 (5)	34 (25)
3.災害時の避難行動に関する準備	避難場所・避難経路・避難方法・避難時期の認知・確認・シミュレーション (19) 家族と集合場所の決定・教室内の人と集合 (3)	31 (22)
4.災害時の役割の明確化	災害時の見守りネットワークや助け合い、高齢者・災害弱者への対応 (3) 平時からの近隣とのコミュニケーションや集まる機会の確保 (2)	8 (5)

表3 災害時に求められる看護学生の行動

カテゴリ名	同一記録単位群	記録単位数 (%)
1.患者・傷病者・避難者の安全確保・応急処置・健康観察における多職種との連携・サポート	避難者に対して応急手当(止血・消毒・副子固定・包帯交換)の実施 (5) 観察・声かけ・健康チェックによる健康状態の把握 (4) 患者・傷病者の安全の確保 (1)	28 (37)
2.患者・傷病者・避難者の健康保持に対する支援	感染症・深部静脈血栓症・熱中症・食中毒予防対策、予防のための自己管理支援 (6) レクリエーションなどADLの維持向上のための活動の企画・実施 (2)	17 (22)
3.患者・傷病者・避難者への物的支援	災害援助に必要な物資の搬送と配布、生活必需品・義援金の送付、献血 (4) 避難者のニーズの把握・充足、情報提供 (3)	14 (18)
4.何らかの疾患をもつ患者・傷病者・避難者に対する支援	排泄の介助、おむつ交換、褥瘡予防のための体位変換などの実施 (4) 視覚・聴覚・身体障害者、精神疾患を抱えた人への援助(情報伝達・声掛け・ケア・服薬指導) (4)	10 (13)
5.患者・傷病者とその家族への精神的援助	患者・傷病者とその家族の不安を軽減するための寄り添い (2) 患者・傷病者とその家族、医療者の目につくにくい軽症患者の思いの傾聴 (3)	8 (10)

考察

1. 看護学生に必要な防災意識(表1)と防災行動(表2)

防災意識として、表1から自身の居住地域でいつ災害が起きてもおかしくないという意識を持ち、地域特性や危険場所を把握しておくことや防災訓練に参加し災害時の行動を知ることが必要だと考えた。

防災行動として、カテゴリ1から備蓄品や非常持ち出し品の準備と定期的な点検が必要だと考えた。カテゴリ2から避難経路・場所や避難時の注意点などの確認が必要だと考えられる。カテゴリ3から、災害に関する情報収集や災害発生時の家族や友人との連絡方法の確認を行っておくことが必要であると考えた。カテゴリ4から、地域の災害弱者への対応について、近隣住民と日頃から話し合いを行っておくことなどが必要だと考えた。

2. 災害時に求められる看護学生の行動(表3)

酒井ら(2018)は、災害発生時には対象者の安全確保が優先され、負傷者の迅速な搬送や救護が必要になるが、災害発生直後は現場の混乱や人員の不足から避難所への誘導が円滑に進まないことを予測している。カテゴリ1にあるように、看護学生は避難者を医療の視点からアセスメントするため、医療者の指示のもと応急処置のサポート、誘導や搬送の補助、傷病者の状態を観察して報告することができると考えた。

酒井ら(2018)は疾患をもつ人や高齢者や母子などの災害弱者への援助の必要性を述べているように、カテゴリ2では、感染症や深部静脈血栓症、食中毒予防のための清掃や環境整備、非日常的な環境で生活する避難者がより良い休息をとれるようにプライバシーの確保やADLの維持・向上や避難者同士のコミュニティ形成のためにレクリエーションの実施も可能と考えた。高齢者や母子への対応、さらには避難者自身が身を守ることができるように、予防教育を行うこともできると考えた。カテゴリ3では、避難者の物的ニーズを把握し、災害援助に必要な物資や生活必需品の配布を行うことも可能だと考えた。カテゴリ4では、疾患により食事や排泄、体位変換に介助が必要な人やその家族に対する援助が行えると考えた。また、聴覚・視覚・身体障がい者に対する声かけや援助も必要だと考えた。

小原ら(2019)は、災害発生時には、自身の生命危機や周囲の悲惨な状況の体験、プライバシーや衣食住が不十分な中で将来への不安を抱きながらの避難所生活を送ることへのストレスなどから、不眠や食欲不振を起こすと予測している。カテゴリ5では、不安を軽減・解消するために、避難者への寄り添いや傾聴が求められると考えた。また、支援者同士の精神的援助では、避難者の前で表出できない不安や悩みを分かち合うことができると考えた。

結論

看護学生は日頃から災害に対する興味や防災訓練への参加などの防災意識を持ち、防災行動を取ることによっ

て、災害時に避難所で、搬送や救護における医療者のサポートや、避難者に対しての健康保持や疾病予防、精神的援助を行うことができると考えられた。

対象文献

- 濱本里彩, 白石三恵, 安井まどか, 他(2017): 看護学生の防災意識・防災対策の実態とその関連要因についての文献レビュー, 大阪大学看護学会誌 Vol.23 No.1, 1-8
- 林和枝, 菊地亜矢子, 中川名帆子, 他(2016): 看護学部の学生および教員に対する防災教育—防災セミナーと防災に対する意識調査—, 岐阜聖徳学園大学看護学研究誌, 創刊号
- 小林友理佳, 浅川愛美, 小田智子, 他(2015): 大学生の防災への関心の実態と関連要因の検討—石川県内の一総合大学1年生を対象として—, 金大医保つるま保健学会誌 Vol.1 39(1), 43-49
- 小谷友梨, 児玉恵美, 牛房奈津己, 他(2012): 保健師学生の関りからみたB地区自主防災活動の課題, 島根県立大学出雲キャンパス紀要 第7巻, 21-32
- 栗本一美, 丸山純子(2016): A大学看護学生の災害に対する意識と防災対策の実態, 新見公立大学紀要 第37巻, 47-52
- 松清由美子(2012): 災害特性の異なる地域で生活する看護学生の防災意識および防災行動の相違, 日本医学看護学教育学会誌, 21, 39-44
- 松清由美子, 野村志保子, 森本紀巳子(2009): 看護学生の防災意識とその影響要因, 日本医学看護学教育学会誌, 10巻3号, 36-49
- 森嶋道子, 佐久間夕美子, 中山由美, 他(2020): 災害時の看護師の役割に関する学生の学び—ボランティアおよび観察者のレポート分析から—, 摂南大学看護学研究, Vol.8 No.1, 10-17
- 中村有美子, 藤井可苗, 菅野夏子, 他(2013): 看護学生の災害看護学履修別防災意識と防災行動の検討, ヒューマンケア研究学会誌 第5巻1号, 55-60
- 中山由美, 森嶋道子, 竹中泉, 他(2018): 救護訓練を通して看護学生が捉えた災害時の看護師の役割, 摂南大学看護学研究, Vol.6, No.1
- 七川正一, 永濱佳織, 福岡真理(2015): 高速船旅客集団事故対策訓練負傷者役に参加した学生の学びに関する報告, 鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要, Vol.19, 37-42
- 佐藤公子, 渡邊克俊(2018): 平常時の災害時用非常食の準備状態と防災意識との関連性の検討, 島根県立大学出雲キャンパス紀要 第13巻, 31-38
- 澤田和子(2019): 西日本豪雨災害地域に居住する看護学生の災害急性期における意識行動の実態, インターナショナルNursing Care Research, 18巻2号, 89-98
- 澤田由美, 古城幸子, 中山亜弓, 他(2015): 看護系大学における災害看護教育—宿泊による授業形態を体験した学生の学びから教育方法を検討する—, 新見公立大学紀要 第36巻, 21-26
- 飛永真由美, 大熊世志(2018): 大規模災害訓練に参加した看護学生が考える災害現場でできること, 生命健康科学研究所紀要 Vol.15
- 兎澤恵子, 高木タカ子, 保坂由美子, 他(2007): 看護系大学生の災害時生活体験における学習効果に関する研究, 群馬パース大学紀要 No.4, 121-129
- 山元恵子, 田中良, 藤谷登(2015): テロ災害訓練に負傷者として参加した看護学生の疑似体験の意義, 千葉科学大学紀要 8, 105-111
- 吉見萌々, 石元菜南子, 葛目裕人, 他(2019): 被災地避難所において看護学生に必要とされる看護援助技術, 高知大学看護学会誌 Journal of Nursing Research Society of Kochi University Vol.13, No.1, p.41-52

引用文献

- 松清由美子, 野村志保子, 森本紀巳子(2009): 看護学生の防災意識とその影響要因, 日本医学看護学教育学会誌, 10巻3号, 36-49
- 内閣府(2020): 防災情報のページ, <http://www.bousai.go.jp/updates/>, 2020年4月30日
- 中村有美子, 藤井可苗, 菅野夏子, 他(2013): 看護学生の災害看護学履修別防災意識と防災行動の検討, ヒューマンケア研究学会誌 第5巻1号, 55-60
- 小原真理子, 酒井明子, 斎藤正子, 他編(2019): 災害看護 心得ておきたい基本的な知識, 第3版, 南山堂
- 酒井明子, 菊池志津子編(2018): 看護学テキスト NICE 災害看護 看護の専門知識を統合して実践につなげる, 第3版, 南江堂
- 吉見萌々, 石元菜南子, 葛目裕人, 他(2019): 被災地避難所において看護学生に必要とされる看護援助技術, 高知大学看護学会誌 Journal of Nursing Research Society of Kochi University Vol.13, No.1, p.41-52